2026年11月21日

地域音楽コーディネーター養成講座【名古屋11月】

①「生涯学習と音楽」

地域音楽コーディネーターの仕事と今日的意義について

日本大学大学院および放送大学 講師
公益財団法人音楽文化創造 理事
久保田　慶一

１．音楽の起源

・太古の昔、音楽は生活の多くの場面で利用された
・狩りの前に狩人たちは勇気を鼓舞するために共に声を上げた
・獲物の収穫を祈り、また一族で喜んだ
・日照りが続くと「雨乞い」をし、秋の収穫を願い、感謝する
・病気の人を癒し、先祖の霊を呼んだ
・コンサートホールでの音楽鑑賞＝19世紀から20世紀前半
　音楽＝作品という考えが定着
　日本の西洋音楽（クラシック）の導入期と一致

２．音楽と社会

・音や音楽は人の感情（情動）を喚起する力がある（喜び、悲しみ、恐怖など、例：鐘の音）
・音や音楽はコミュニケーションの手段となる（例：トーキングドラム、典礼歌など）
・同じ場所で同じ時間に同じ音楽を共有することで心をひとつにする
・音楽活動の場＝音楽のチカラと音楽を聴くチカラが「相互に作用」する場所である
・両者のチカラが相互作用する場所はさまざまである。



2026年11月21日

３．音楽活動の「場」

例１：合唱



・同じ「言葉」を同じ「息」で歌う

言葉の意味（言霊）＋「息＝生き」

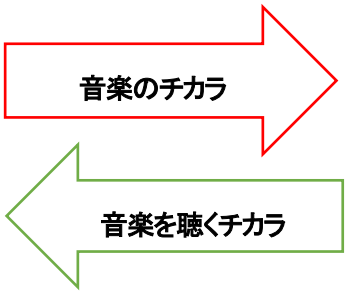
→相互に作用して、声を出す人たちの連帯感など精神的なつながりが醸成される

・聴衆も言葉の意味（言霊）＋「息＝生き」を共有することができる

例２：インタラクティブ(双方向型)演奏会

Interactive=inter + active ⇒　interaction（相互作用）







・インタラクティブ(双方向型)演奏会では、聴衆参加の演奏会が実施されることが多い。

・演奏者自身が、演奏前にトークをしたり、アクティビティ activity をしたりする

これから演奏する曲に聴衆を導く役割を担う。（ティーチング・アーティストと呼ばれる）

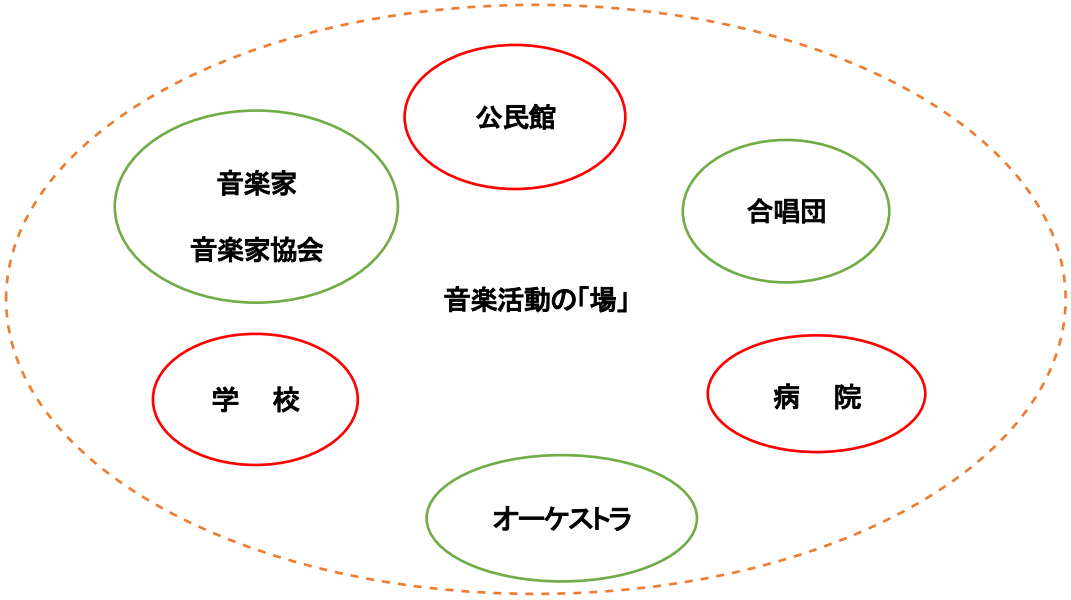
・ティーチング・アーティストは、演奏者でも MC（司会者、進行役、企画者）でもよい

アクティビティの例：歌詞の朗読(ディスカッション)、メロディーやリズムの共有など

参考：久保田慶一『新しい音楽鑑賞：知識から体験へ』（水曜社、2019年）

2026年11月21日

4．コミュニティ音楽＝音楽活動の「場」の創出



5．地域をコーディネートするとは

・地域に存在するコミュニティ形成の場所（学校、公民館、ホール、美術館、福祉施設、病院 etc.）を連携させて、地域の音楽資源を活用して、音楽活動の場、すなわち、音楽のチカラと音楽を聴くチカラが相互作用する場所を創生することである。

・音楽のふたつのチカラの相互作用によって、地域コミュニティは活性され、地域の社会問題（外国にルーツをもつ人々との交流、地域による子育てなど）を解決する手段のひとつとなる。

６．学校部活動の地域展開との連携

・学校部活動の地域展開＝学校の文化部活動を地域の文化芸術活動に移行させる

・移行に伴う課題

〇　指導者の養成：児童・生徒の教育の一環であることから、指導者に教育者としての資質が求められる

〇　地域の文化施設等の連携

・地域音楽コーディネーターの教育的役割

〇 子どもと地域の視点から見る必要性 → 子どもが学校から地域社会に移ることで、そこから子どもたちと地域の大人たちとの出会いが生じる。

〇　子どもがやがて大人になり、地域の担い手となっていくという社会教育の場となるはずである　→　大人の生涯学習の場にもなる。

７．最後に

公益財団法人音楽文化創造では、こうした双方向型の演奏会の企画・実施に対して、助成しています。詳しくは、法人公式サイト　「「国際音楽の日」記念事業に関する助成金」をご覧ください。



Niterra日本特殊陶業市民会館/公益財団法人音楽文化創造